

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400309		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームほしおき		
所在地	札幌市手稲区星置1条4丁目2番12号星置駅前メディカル2階		
自己評価作成日	平成27年10月2日	評価結果市町村受理日	平成27年11月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0190400309-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【基本理念】</p> <p>①いつも笑顔で暖かく見守ります。</p> <p>②目配り、気配り、心配りを大切にしてチームケアを行って行きます。</p> <p>③地域との触れあいを大切に穏やかな生活をしていきます。</p> <p>以上の3点を基本に毎日のケアに励んでいるホームです。同ビル1階には内科がありホームの主治医として日、祝日以外は訪問診療の協力を頂いており、その他健康状態など色々な相談にのっていただいております。</p> <p>またJRほしおき駅から数分の場所に有り、ご家族の方にとって交通の便もよく面会が多く有ります。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>札幌市郊外のJR星置駅近くに位置する2ユニットのグループホームである。メディカルビル2階にあり、1階が内科医院、3階が整形外科医院となっている。駅から近いため、銀行やスーパーなどが近く便利でありながら、緑地帯や公園もある恵まれた住環境となっている。1フロアに2ユニットがあるため利用者や職員が気軽に行き来ができる。各ユニットとも共用空間が広く、壁は白を基調として装飾も多く、明るい雰囲気となっている。1階の内科医師による往診が毎日あり、歯科の往診体制も整っているため、医療面で利用者や家族が安心してきている。また、職員同士のコミュニケーションが良好で、会議では事前に課題や意見を出して会議を内容のあるものになっている。サービス評価(自己評価)にも職員全員が参加している。また、職員の理念の理解も優れている。法人が多数のグループホームを運営しているため、各種の書式やマニュアルが整備され、研修体制も整っている。家族の来訪時に意見を聞いたり、毎月個人ごとのお便りを提供することで、家族と良好な関係を築いている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(おおぞらアウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・各ユニットに掲示し、いつも確認できるようにしている。また、朝・夕の申し送り時に一緒に読み上げて、共有している。	3項目からなる事業所独自の理念の中で「地域とのふれあいを大切に」という文言を含め、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念としている。理念を事務所や各ユニットの共用部分に掲げ、朝夕の申し送り時に唱和し共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、ボランティアを招くなど、交流を図っている。	隣接する老人保健施設の夏祭りに利用者とともに参加している。踊りや三味線演奏のボランティアの方、ふれあいフェスタの見学者などが事業所を訪れている。今後は幼稚園などの子供達との交流も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二か月に1回、運営推進会議行い、ご家族や町内会・地域包括支援センターの方から認知症ケアについての話を伺うなど、情報を共有している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの実施内容や行事活動報告などを行っている。自己評価及び外部評価の結果の内容についても話し合いをする機会をもうけている。	会議は2か月毎に開催され、地域包括支援センター職員、町内会役員、民生委員、複数の家族の参加を得て意見交換し、議事録を家族に送付している。活動報告や研修報告が中心だが今後は計画的なテーマを設けて開催する予定としている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市・手稲区の管理者会議に参加し、事業所からも積極的にケアサービスの取り組みを伝えるとともに、地域包括支援センターの職員には、運営推進会議に参加して頂き、意見や近況を報告して頂いている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加するほか、区のケア連絡会でも地域包括支援センターと連携を密にしている。区主催のふれあいフェスタで区民の見学の受け入れに協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議や研修会などで、話し合いの機会を持ち、拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行われておらず、禁止の対象となる具体的な行為を示したマニュアルを整備し、年2回程度の勉強会で共有している。各ユニットからエレベーターまでの出入りは自由で、出入りはセンサーや鈴の音で把握している。玄関も日中の1階の医院の営業時間内は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に全体会議や研修会などで、話し合いの機会を持ち、虐待防止に努めている。		

ふれあいの里 グループホーム ほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を開催するとともに、外部研修に参加し、学ぶ機会を増やしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。改定時には、本社より書面での説明と電話連絡、ホーム来訪時には、管理者からも説明し、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、本社からのアンケート調査を行い、その結果を運営に反映させるとともに、本社に、苦情相談窓口を設置し体制づくりを行っている。また、来訪時に話しやすい環境づくりに努めている。	運営推進会議に複数の家族の参加があり、普段の来訪も多いため、意見をj得る機会が多い。家族からの意見は申し送りノートに記載し、職員間で共有している。毎月、利用者ごとのお便りを作成し、家族に提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる職員会議の中で、意見要望を聞き、月例会議にて運営者に報告している。	月1回のユニット会議にほとんどの職員が参加し、活発に意見交換をしている。会議は事前に職員から課題や意見の提出を受けている。管理者は職員と定期的に個別面談を行うほか、いつでも相談できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談する機会を持ちながら、意見交換を行い、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修では、個々に合わせた(職種・階層・目的別など)活かされた研修が行われ、職員のスキルアップに繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の内部研修の中で職員が交流する機会を設け、サービスの質の向上の取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は、日頃から関わりを多く持つように努め、思いや現在の状況を把握するようにし、安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にご家族と会話を持つように心がけ、困っていることや要望を伝えやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族記載のファイスシートを活用したり、ご家族との面談のなかで、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りのお手伝いやレクリエーションなど、日々の会話の中で、関係作りに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、居室にて一緒に談話したり、外出して頂くなど、関わる場面を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には、日頃から使用していた、馴染みの物を持ってもらっている。また、友人との面会も自由に行って頂いている。	遠方からの友人や宗教関係の知人などが来訪する利用者もあり、来訪を歓迎している。家族と一緒に美容院や馴染みの店に出かけている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様にさりげなく話しかけるなど、入居者の間に入り、お互いに関わりが持てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も必要に応じ、相談を受けるなど支援につとめている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や関わりの中で、何を希望されているのか把握し、職員間で共有すると共に、毎月のカンファレンスで検討している。	言葉で思いや意向を表出できる方は半分ほどで、難しい方場合は過去の経験や情報をもとに把握している。アセスメントシートは古い様式と新しい様式が混在しており、情報内容も個人差が見られる。	アセスメントシートについて、新しい書式のもと利用者の基本情報や生活歴、暮らし方の希望などの情報が整理され、計画的に更新されることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご家族の面談やフェイスシートの活用により把握している。また、入居後の生活の中から情報を共有し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りの中や業務の中で状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング用紙に記入し、それを毎月のケアカンファレンスで検討し、計画作成に活かしている。	介護計画を3か月毎に見直し作成している。モニタリングを行い、カンファレンスで意見交換して計画を更新している。日々の記録は介護目標を意識して記録しており、業務日誌にもケアに関する特記事項を記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のアセスメント表へ記載することで、情報を共有し、介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望・要望に対して、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや町内会と連携を取り、暮らしの中に楽しみが持てるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同ビル内には、内科、整形外科があり、受診や訪問診療などで支援している。	建物の1階に内科、3階に整形外科があり、各利用者が月2回、内科の医師の往診を受けている。歯科の往診体制も整っている。受診内容や受診に関する家族への連絡を「支援・医療経過記録」に記載し、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同ビル内の内科の看護師が医師の指示のもとで支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、直ぐに介護添書作成し、病院に情報提供をし、病院関係者との関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に事業所の方針を口頭説明している。入居者が重度化した場合には、早い段階から医師と相談し、ご家族とも話し合い最良の方法での支援を心がけている。	利用開始時に「利用者様が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、署名捺印を得ている。過去に事業所での看取りの経験はなく、医療行為が必要となる場合の対応は難しい旨を伝えている。管理者が看取りに関する勉強会に参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時のマニュアルがあるが、対応時に活かされるかが課題となっている。研修や定期的な訓練を通じて、応急手当や初期対応の実践力を身につけていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策体制は、出来ている。定期的に入居者参加の避難訓練を消防署立ち合いのもとで行っている。	年2回の昼夜を想定した避難訓練を実施しているが、地域の方の参加は得られておらず、職員の救急救命訓練もしばらく行われていない。災害時に必要な備蓄品を用意している。	避難訓練に地域の方の参加が得られるよう、対象先を広げながらの協力の呼びかけを期待したい。また、職員の定期的な救急救命訓練の受講と、地震等の災害を想定した防災マニュアルの確認、対応方法の確認を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が日常の関わりの中で、意識しながら、声掛けを行っている。サービス提供時は、誇りやプライバシーの保護に努めている。	職員は人格を尊重し、ゆっくり穏やかに話しかけている。プライバシーに配慮してトイレ誘導の際は耳元で話しかけながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での関わりや会話の中で、話しやすい雰囲気作りに努め、意思を引き出す様になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本位の考えをもとに職員が話し合い、一日の過ごし方を決め支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、訪問理美容サービスを利用している。また、着る服をご自分で選んでいただくなど、支援をしている。		

ふれあいの里 グループホーム ほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの芽取りや食器拭きなど職員と一緒にやっている。	職員も同じテーブルで会話をしながら楽しく食事をしている。メニューや食材は本社から一括して届くが、行事食で焼ソバや調理パン、誕生日のケーキと一緒に作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社の管理栄養士のもとで、栄養バランスが考えられている。水分量は、毎日、チェック表に記入し、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、朝・夕のみ実施している。必要に応じて個別に対応している。定期駅に訪問歯科の往診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の感覚を確認しながら、声掛けや誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。	利用者全員の排尿・排便チェック表をつけており、適切な声かけでトイレ誘導をしている。毎朝の牛乳や状況によりヨーグルトの提供で整腸管理をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄サイクルを把握し、腹部マッサージを手伝ったり、水分を摂取して頂き、自然排便の働きかけを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	通常、午後から週2～3回の入浴で、当日の健康状態や精神状態に考慮し、ご本人の希望に沿うように配慮している。	毎日の午後、3名程度の入浴で清潔維持をしている。拒否がある場合でも声かけのタイミングで気分の良い時に入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣に合わせて、室温・音・明るさなど環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の支援方法を徹底し、薬の変更があった場合には、その都度、様子観察をし、職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションに参加して頂いたり、食器拭き等簡単な家事を手伝っていただくなど、生活の中に楽しみや張り合いが持てる様支援している。		

ふれあいの里 グループホーム ほしおき

自己評価	外部評価	項目	外部評価(事業所全体)		
			自己評価(おおぞら)	実施状況	実施状況
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出の支援は、常時行っている。日常的には難しくなっているが、ご本人の状況に合わせ、希望に沿えるように努力している。	日常的な外出はないものの、近隣の老健のお祭りに職員同伴で参加している。利用者の重度化や職員の交代などの要因のため、日々の散歩や外出行事は近年は行っていない。	職員交代の安定に伴い、玄関前での外気浴や周辺の散歩など、日常的な外出が増えることを期待したい。また季節行事での外出機会の増加も期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針として、金銭は、会社立替金として、買い物等に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、いつでもご家族とお電話が出来る様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に行事の様子を撮った写真を掲示したり、壁に季節感のある絵や飾り付けをするなど、工夫している。	リビングには大きなテレビとソファがあり、好きな場所で寛ぐことができる。廊下には季節行事の写真が飾られ、利用者の思い出となっている。手作りのカレンダーや季節の飾りで安心して過ごせる空間になっている。冬期は乾燥は防ぐために濡れたタオルを干し乾燥を防いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は自由な場所で過ごして頂き、テレビを見たり、パズルをされるなど、過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベットなどご家族と相談し、安全に配慮しながら使い慣れた好みの物を持ってきて頂いている。	居室の壁は家族の写真や趣味の飾りで自分らしく、安心して過ごせる部屋になっている。使い慣れたタンスやTVなどが置いてあり、食後は居室でのんびり過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール・室内すべてバリアフリーになっており、居室前にネームプレートをつけたり、洗面所・台所・トイレも分かるようにしており、自立に繋がるような空間づくりに努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400309		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームほしおき		
所在地	札幌市手稲区星置1条4丁目2番12号星置駅前メディカル2階		
自己評価作成日	平成27年10月2日	評価結果市町村受理日	平成27年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「おおぞら ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0190400309-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年10月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(だいちアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・各ユニットに掲げ申し送り時に唱和し理念を共有しており実践に繋げている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の参加やボランティアを招いての行事など、地域との繋がりを大切に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、ご家族・町内会連合会・地域包括支援センターの方々などに認知症ケアの理解や支援方法の話し合いや説明を行い取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施状況や活動報告、自己評価及び外部評価の結果についても話し合い意見を取り入れ検討し、向上に活かされている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市・手稲区の管理者会議に参加し事業所側からも積極的にケアサービスの取り組みを伝え、協力関係づくりを実施している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会で得たものを事業所で全体に周知徹底し、支援についての話し合いを行い身体拘束0のケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に、研修にも積極的に参加し虐待の防止に努めている。		

ふれあいの里 グループホーム ほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な研修への参加や自己学習を通じ、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時は重要事項を分かり易く説明し、不安の残らない様に理解・納得を図っている。改定時には本社からの書面での説明など対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置し体制づくりをしている。来訪時なども話しやすい環境を作り、意見などあった場合は検討し反映に繋げている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や提案を出来る様な機会を設け反映されるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談を行う機会が設けられ、状況に合わせて環境・条件の整備に努め、各自が向上心を持って働けるよう行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修では個々に合わせた(職種・階層・目的別など)活かされた研修が実施され積極的に参加できスキルアップに繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などの機会を通じネットワーク作りに努めサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望または状況の把握に努め安心出来る様な関係作りを実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が感じている事に耳を傾け、不安の残らない様に関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時は不安や困り事も多いなか、どのような支援を必要としているのかを見極め相談し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な支援にならない様にご本人の状況に合わせて出来る事を一緒にして頂き、信頼し合えるような関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時にはご本人を交えての会話の場を作り絆を大切にしながら共に支え、馴染みの関係として信頼を得られるよう対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人も気軽にいつでも来訪出来る様配慮し、途切れる事の無いよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人同士のコミュニケーションや集団参加を通じ各自が孤立せず関わりが持てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応し支援に努めている。またご家族から退去後の様子もご連絡頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いを大切にし意向に沿えるよう、常にご本人を主体に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートを活用し情報を共有、またご本人様との会話の中からも情報を引き出し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に沿ったその人らしい生活の仕方や現状の把握に努め個別ケアに繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回の会議でモニタリングを実施し現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入し変化に対してもすぐに情報を共有できる体制づくりができており介護計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に対応し、柔軟な支援に繋げる取り組みに努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が心身の力を発揮し楽しめるよう地域資源を活用し協力を得て取り組まれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ビル内1階の内科に主治医がおり訪問診療を通じ支援しご家族の協力や納得も得られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医でもある内科の看護師が医師の指示のもと支援され適切な受診に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より医療関係者との情報交換を密にし関係作りに努めている。入院時には介護添書にての情報提供や早期退院時にはソーシャルワーカーからの情報で相談しご家族と連絡を取り受け入れ対応に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に十分な説明を行い、ご本人が重度化した場合は早い段階から医師と相談しご家族とも話し合いご本人にとって最良な方法で支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時のマニュアルはあるが対応時に活かされるかが課題。研修や定期的な訓練を通じ応急手当や初期対応の実践力を身に付けていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては昼・夜を想定し消防署員立ち合いのもと行い助言も頂き活かされている。地震・水害については対策が周知されていない。地域との協力は日頃から体制づくりに努めている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員がご本人の尊厳やプライバシーに留意し言葉かけや対応を常に意識し対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が何を希望しているか遠慮なく表せるよう傾聴し自らが選択・決定できる様な働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にしご本人を中心に考え出来る限り希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切に身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している。毎月訪問理美容サービスがありそれぞれがご自分の希望で髪染もされている。		

ふれあいの里 グループホーム ほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備・味見・後片付けなどその人が出来る事を一緒にやっている。食事と同じテーブルで会話も交え楽しめる時間になるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成の献立をもとにバランスの整った食事ができる。また食べやすい大きさや柔らかさにも留意している。水分摂取も全職員が把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じたケアの支援や介助を行っている。訪問歯科で口腔状態に対応し常に清潔の保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターンを把握しトイレでの排泄に繋げている。チェック表を用いて職員が情報の共有をしている。声掛けにも工夫し配慮して自立に向けた支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルト・乳酸菌飲料を用いているが、他にも腹部のマッサージや活動により自然排便に繋がる支援をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けの工夫やタイミングを見計らい楽しんで入浴が出来るように支援している。その日の状態に応じながらご希望にそえるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に配慮しご自分のペースで休息とられている。室温・湿度の環境整備や、眠れないとの訴え時は安心して入眠できる様、談話やホットミルクの提供にて対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の支援方法の徹底をし、RP変更時には常に状態観察をし把握に努めるよう全職員が取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクもマンネリにならない様工夫し参加を通じて気分転換を図れている。個々の状況に応じ生活リハも取り入れ役割を持てるように支援している。		

ふれあいの里 グループホーム ほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出の支援は常時行っている。日常的に戸外へ外出するのは難しくなっている部分もあるがご本人の状況に合わせてご希望に沿えるよう努力している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針により金銭は事務所でお預かりしている。買い物の際、ご自分で購入されたものの支払いは職員と一緒にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じていつでも電話が出来る様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごせるよう居心地の良い環境づくりに努めている。季節感のある飾り付けや日付も分かり易いようにしている。また共用の場は常に清潔を保つように職員も気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時に合わせ席を移動したりソファを活用し談話されたりと、思い思いに過ごす事ができている。隣のユニットへも訪問し気の合った方々の交流も図れている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや馴染みの物をご家族とも相談の上配置し安全にも考慮した居住空間づくりがされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており移動に不便がないようになっている。洗面所・台所・トイレも分かるようになっており自立に繋がるような空間づくりに努めている。		

目標達成計画

作成日：平成 27年 11月 4日

市町村受理日：平成 27年 11月 5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	アセスメントシートについて、新しい書式のもと利用者の基本情報や生活歴、暮らしの希望などの情報が整理され、計画的に更新される事を期待したい。	現在の入居者様の状況を全職員が共通に書面で把握する為にもアセスメントシートを作成する。	全員分を一度ではなく、月に1名分のアセスメント作成に取り組む。また作成する事によって職員が書面で情報を共有できることを意識する。	6ヶ月
2	35	避難訓練に地域の方の参加が得られるよう、対象先を広げながら協力の呼びかけを期待したい。また職員の定期的な救急救命訓練の受講と、地震等の災害を想定した防災マニュアルの確認、対応方法の確認を期待したい。	避難訓練に、地域、または周辺の施設の協力を要請する。	避難訓練の際、GHIほしおきの近隣の施設にも協力の要請をする。(ライフほしおき、ジャパンケア)運営推進会議の際、地域の代表にも協力要請をする。	6ヶ月
3	49	職員交代に伴い、玄関前での外気浴や周辺の散歩など、日常的な外出が増える事を期待したい。また行事での外出機会の増加も期待したい。	外出を増やし入居者様が気分転換をはかれるように援助する。	短時間でも入居者様と一緒に玄関に出て空気を吸ったりご家族にも外出をしていただく様に声掛けをする。また職員も入居者様が気分転換出来る様に意識する。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。